

お名前 森下 穎幸  
ご住所 度会郡南伊勢町  
発生時にいた場所 四日市市塩浜町  
当時の年齢 16 歳

昭和十八年四月一日、五ヶ所尋常高等小学校、高等科二年卒業と同時に、学校側の指導によって四日市市塩浜町にあった第二海軍燃料廠へ入所。入来日誌を書き続けて来たが、これが発生当日のものである。(以下当時の日誌コピーより)

---

十二月七日 木曜日 晴

何ヤラ足元ガオカシイ。體ノ浮キ上ルヲ感ズ。續イテ振動ス。「ア！」地震ダ。横ニ氣味悪ク遙レル。人々モ感じタラシク外ヘ走ッタ。皆、無我夢中デ外ヘ出ル。積ンデアリシフランチノ倒レ落ちル音、生レテ始メテ會フ大地震ナリ。時ニ、十三時三十五分。倒レサウナ地面ヲハウ様ニシテカラウジテ詰所前ノ空地ヘ出タ。横ニ大キクユレル。將ニ大地面ガ動遙ス。工場ハ倒レルノデワナカラウカト心配セズニハキラレヌ。

「アノ石原産業ノ煙突ガ折レタ」誰カノ叫ビ、アハレ世界一ニト言ワレシ石原ノ煙突ハ昭和十九年十二月七日午後一時三十五分、惜シクモ上半身、大空ヨリ姿ヲ消ス。

磯津橋落ツ。約二三分震動シ續ケテキタダロウ。本當ニ生レテ始メテノ大地震ナリ。面白イ様ダ。又恐シイ様デモアル。地震ノ震源地ハドコダロウ。サシテ遠クハアルマイ。

被害ヲ受ケタ人々ニ同情ノ念止マヌ。

---

(何やら足元がおかしい。体の浮き上るのを感じず。続いて振動す。「あ！」地震だ。横に気味悪く揺れる。人々も感じたらしく外へ走った。皆、無我夢中で外へ出る。積んでありしフランチの倒れ落ちる音、生まれて初めて遭う大地震なり。時に、十三時三十五分、倒れそうな地面をほう様にしてかろうじて詰所前の空地へ出た。横に大きく揺れる。将に大地面が動揺す。工場は倒れるのではなかろうかと心配せずにはいられぬ。

「あの石原産業の煙突が折れた」誰かの叫び、あはれ世界一にと言われし石原の煙突は昭和十九年十二月七日午後一時三十五分、惜しくも上半身、大空より姿を消す。

磯津橋落つ。約二三分振動し続けていただろう。本当に生まれて初めての

地震なり。面白いようだ。又恐ろしい様でもある。地震の震源地はどこだろう。  
さして遠くはあるまい。被害を受けた人々に同情の念止まぬ。)